



学習に用いる言葉

六年間で学んだ言葉

あらすじ

物語を短くまとめたもの。登場人物がしたことや、出来事を、話の順に短くまとめてつなげると、あらすじになる。

物語を人にしようかいつるときには、あらすじを伝えようと、その物語を全部読まなくても、だいたいどのような内容かが分かる。

引用

他の人の言葉や、本などに書かれていることを、自分の文章の中で使うこと。

- ・かぎ(「」)を付けるなどして、他と区別する。
- ・元の言葉や文を、そのままぬき出す。
- ・どこから引用したのかを示す。

他の人の考えを引用することで、自分の話や文章の内容を補うことができる。

会話文・地の文

かぎ(「」)で示している、登場人物の言葉を会話文といい、他のところを地の文という。物語では、主に地の文によって話が進む。

会話文では、登場人物の考えや思いがそのまま表れていることが多い。

地の文では、登場人物の様子や行動を表しているところに、その登場人物の性格や気持ちが表れていることがある。

箇条書き

事がらを、短く、一つ一つ分けて書き並べる書き方のこと。「①」「②……」など、記号や数字を用いることが多い。

箇条書きを使うと、事がらの全体や順序を整理しやすくなる。

語り手

物語の地の文を語る人。人物の行動や気持ち、場面の様子などを語りながら、話を進めていく。

視点

物語や詩において、語り手がその作品をどこから見て語っているかということ。登場人物に寄りそった視点から語ることもあれば、登場人物自身の視点から語る場合や、どの人物にもかたよらない視点から語る場合もある。

どの視点から書かれているかを意識して読むと、地の文からも、中心となる人物の心情の移り変わりを読み取ったり、作品世界の様子を、その人物に寄りそって想像したりすることができる。

取材

知りたいことについて、さまざまな方法で調べて、材料を集めること。実際に見たり聞いたりする、本などで調べる、アンケート調査をするなどの方法がある。

取材をして分かったことは、伝える内容や考えを確かにしたり、補ったりするのに役立つ。

主張

自分の意見や思いを他の人にうったえること。また、その意見や思いのこと。

語り手がどのような立場で、どの登場人物に寄りそっているかを確かめると、その物語の世界をいっそう深く味わうことができる。

議題

話し合いや会議などで取り上げる題材のこと。話し合うことによって何かを決めたり、たがいの考えを交流したりしたい事がらを選ぶとよい。

議題を、話し合いの初めに確かめたり、いつも参加者から見るところに示しておいたりすると、参加者が話し合いの方向性を理解でき、進行しやすくなる。

キャッチコピー

相手を引きつけるように工夫された、短い言葉。

ポスターや広告など、多くの人が見るものに、目を引くように使われている。

話や文章の中では、「初め」や「終わり」に主張を置くと、相手の印象に残りやすい。

出典

引用した言葉が書かれていた本や資料などのこと。本の場合は、①作者名、②題名、③出版社(発行所)名、④発行年、⑤書かれていたページを示す。

出典を示しておくことで、読んだ人が、同じ本や資料などを探して読むことができる。

情景

物語や詩で、登場人物の気持ちとひびき合うようにえがかれた、風景や場面の様子。その登場人物の目に映った景色や、聞こえた音などとして、修飾語とともにえがかれることが多い。

会話文や地の文に、登場人物の気持ちや分かる言葉がなくても、情景から人物の気持ちを想像することができる。

構成(組み立て)

話や文章の全体が、どのようなまとまりで組み立てられているかということ。

文章を書いたり読んだりするときには、構成を「初め」「中」「終わり」に分けて考えるとよい。

根拠

考えや主張のもとになるもので、客観的な事実や、体験などの具体的な事例によって示されることが多い。

根拠が適切かどうかを考えることで、その考えや主張に説得力があるかどうか分かる。

索引

その本の中にある言葉や物事などのページにあるかを、五十音順などで示してあるもの。

事例

ある物事や考えを説明するために例として挙げられる、具体的な事実のこと。

話や文章の中で、適切な事例を用いると、分かりやすく伝えたり、説得力をもたせたりすることができる。

心情

登場人物が、心の中で思っていることや感じていること。直接書かれているだけでなく、行動や会話、情景にも表れる。

心情とその変化を表す語句に着目すると、その人物の人物像を具体的に思い浮かべることができる。

人物像

物語全体を通してえがかれる、人物の性格や、ものの見方・考え方などの特徴を、総合的にとらえたもの。

設定をもとに、その物語の世界や人物像を想像することで、物語の全体像をとらえることができる。

作者

物語や詩を作った人のこと。同じ作者の作品をいくつも読むと、その作者の作品のみりよくがよく分かるようになる。

司会

話し合いなどを、目的や話題に合わせて進行すること。また、それを行う人。

全員が、自分が司会だったらどう進めるかを考えながら参加すると、話し合いが進みやすくなる。

質問

分からないことや知りたいこと、確かめたいことなどを、人にきくこと。質問をするときは、相手の話をよく聞いて、関係のあることをたずねるようにする。

話し合うときには、おたがいに質問をし合うことで、他の人の考えがよく分かったり、みんなの考えが整理されたりする。

推敲すいこう

一度書いた文章をよりよくするために、読み直して、誤字などを修正したり、形式や表現を適切な形に整えたりすること。

読み手を意識して推敲することで、自分の伝えたいことが相手に伝わる文章にすることができる。

設定

時、場所、登場人物など、その物語全体に関わること。

設定を読み取ることで、人物の変化や出来事の意味をとらえやすくなる。

対比

二つのものを比べて、ちがいをはっきりさせること。

対比して説明することで、それぞれの似ているところやちがうところ、長所や短所などが分かりやすくなる。

題名

物語や文章に付けられた名前のこと。

題名には、書いた人が作品や文章にこめた思いが表れていることがある。

段落だんらく

文章を組み立てている、事ごとの内容のまとめり。初めを一字下げて表す。

読むときは、それぞれの段落で何が書かれているのかを考えると、全体の内容がとらえやすい。書くときは、内容ごとに段落を分けると、読み手に分かりやすい。

問い(問いの文)

説明する文章などで、これから何を書くかを、読み手に問いかける形で表した文のこと。

問いの文を見つけると、文章全体で書かれていることを見通すことができる。

登場人物(人物)

物語の中に出てくる人のこと。物語の中で、人のように動いたり、考えたりする生き物や物も、登場人物(人物)という。

登場人物が言ったことや、したことを思いつかべながら読むと、物語の内容がよく分かる。

場面

物語の中にあるいくつかのまとめりのこと。時間や場所、登場人物のしたことなどで、ひとまとまりになっていることが多い。

登場人物の会話や動き、そのときの音や色などを表す言葉に気をつけると、場面の様子をくわしく想像できる。

筆者

文章を書いた人のこと。お話や詩などを作った人である「作者」と区別して、説明する文章を書いた人を筆者ということがある。

筆者がどんな人かを確かめたり、筆者が考えたことに気をつけて読んだりすると、その文章が何について説明しているのかがよく分かる。

見出し

文章のまとめりの初めに置かれる、要点を短くまとめた言葉。

見出しを見ると、そのまとめりのおおまかな内容が分かる。

メモ

聞いたことや考えたことなどを、後で確かめられるように書き留めること。また、書き留めたものも、メモという。

大事なことを短い言葉でメモしておき、整理したりまとめたりすると、後で伝えたいことを正しく伝えることができる。

訳者やく

外国語の文章を、日本語の文章に直す人のこと。

同じ作品でも、訳者によって、使われる言葉や表現が異なる。

山場

物語の中で、中心となる人物のものの見方・考え方や、人物どうしの関係が大きく変わるところ。

山場の前後で、何が、どう変わり、どうえがかれているかに着目すると、作品のテーマにせまることができる。

要旨ようし

筆者が文章で取り上げている、内容や考えの中心となる事から。文章全体をまとめている段落だんらくに表れることが多い。

人が書いた文章の要旨をとらえることは、自分の知識や考えを広げたり深めたりすることにつながる。

要点

物事や人の話などの中心となる、大事な事からのこと。

話すときや書くときは、短い言葉や文で要点をはっきりと表すと、伝えたいことが伝わりやすくなる。

文章や話の要点となる言葉を見つけるのと、その人が何を伝えたいのかがよく分かる。

要約

話や本、文章の内容を短くまとめること。目的に応じて、元の文章の組み立てや表現をいかしたり、自分の言葉に言い換えたりしてまとめる。

要約すると、長い文章などでも、短くまとめて伝えることができる。

連

一行空きなどを入れて区切られた、詩の中のそれぞれのまとめり。

一連ごとに様子を想像したり、連どうして使われている言葉を比べたりすると、詩の全体がとらえやすい。

話題

話したり話し合ったりするときの材料や、中心となる事からのこと。

話題から外れないように話すと、聞く人も、何を伝えたいかがよく分かる。

割り付け

新聞などで、記事や見出し、写真・図などの大きさと、入れる場所を決めること。

最も伝えたいことを大きくあつかうなど、割り付けを工夫するとよい。